## 紀州へら竿の起源

紀州へら竿の起源は明治15年（西暦１８８２年）に、大阪で創業した竿銘：竿正に始まっており、来年で１４０年目を迎えます。

明治15年頃は幕末の混乱が少しずつ落ち着きをみせ、多くの人が釣りを楽しむ時代となりました。さらに大正時代に入り、釣りのブームが到来したことで、日本全国で釣り竿が作られるようになりました。その製作工程はさまざまで、使用する竹の種類はもちろん、竹を継いで作る継竿や一本の竹で作る延竿など釣る魚の種類や場所などにより異なっていました。

▲源竿師

本市における紀州へら竿の歴史は、竿正の子二代目竿正に弟子入りした竿五郎の弟子であった児島光男氏（竿銘：師光）と山田岩義氏（竿銘：源竿師）が、昭和初期に本市へ持ち帰ったことにより始まりました。

## 伝統的工芸品に指定

平成25年3月、紀州へら竿は経済産業大臣指定の伝統的工芸品に指定されました。和歌山県では、紀州漆器、紀州箪笥に次いで3品目の指定になります。

紀州へら竿の材料の一つである高野竹が紀伊山地に多く自生しており、その竹が良質であったことから橋本市周辺に産地が形成されることとなりました。また紀州へら竿は、火入れした竹を継いだこと、竹を丸く削った穂先、玉口の絹糸や漆、持ちやすい握りをつけたこと、そのどれもが手作業で今なおそのままの技法が親方から弟子へと脈々と受け継がれていることが認められ、伝統的工芸品の指定を受けました。

## 歴史を紡ぐ伝統工芸士

伝統的工芸品は、主要な工程が手作りであり、高度な伝統的技法によるものであるため、習得には長い年月が必要となります。その技術と伝統的工芸品に関する知識を習得した人は「伝統的工芸品産業振興協会」の試験に合格することで「伝統工芸士」に認定されます。

伝統工芸士は、高度な技術を保持する自負と責任を持って産地のリーダーとして産地振興のために活動しています。

本市では現在10人の竿師が伝統工芸士として後継者育成やへらブナ釣り体験学習など産地振興に取り組んでいます。

# 紀州へら竿を未来に残したい――

## 伝統を守り続ける紀州製竿組合

昭和35年、当時の竿師たちが「紀州へら竿」のさらなる普及啓発を目指し、紀州製竿組合が結成されました。それ以降、さまざまな取組みが行われ、現在も隠れ谷池での釣り大会や学生への体験学習など、多くの皆さんと親交を深めるとともに、紀州へら竿へ愛着を持ってもらうために日々活動されています。

▲隠れ谷池で学生向けに行われた体験学習の様子

また、例年横浜の展示会に参加され、中国の有名な展示会などに参加する組合員も出てきています。

そのつながりから、令和2年11月には「アジアヘラブナサミット」を本市で開催し、国内をはじめ、中国、韓国、アメリカなど国外からも多くの釣り好きが集まりました。

## 南海電鉄との連携

紀州製竿組合では産地の中心である紀伊清水駅の駅業務に協力しています。大阪府や高野山へとつながる紀伊清水駅をきれいに保つことで、新型コロナウイルス感染症が収束した際には多くの観光客が訪れ、紀州へら竿を認識していただけることを期待しています。

また、橋本市と紀州製竿組合で共同制作した紀州へら竿のPR動画が、5月から南海電鉄なんば駅の大型ビジョンで放映されています。

◀紀州へら竿のＰＲ動画はこちらから

## 後継者育成施設「匠工房」

## 伝統を体感

本市では紀州製竿組合と南海電気鉄道株式会社と協力し、令和3年2月に南海高野線紀伊清水駅駅舎の一部を改修して後継者育成施設「匠工房」を開設しました。竿師の育成の場として多くの皆さんに認識してもらい、竿作りに興味をもった若者が技術の継承のために匠工房を訪れることを期待しています。

匠工房では工房内にて展示しているへら竿や製作工程の様子なども見学できます。

また、有料で製作体験を行うことも可能です。へらブナ釣りが好きで竿作りを体験したい人など多くの皆さんの利用をお待ちしています。5人以上で事前に申し込んでいただければ下記営業日時に加え、月・日曜日でも対応可能です。

詳しくは市ホームページ（下の二次元コード）をご確認ください。

**●営業日時**
火・水・木・土曜日
午前8時30分～午後4時

**●問い合わせ**
高野山麓ツーリズムビューロー
☎０８０－２４２０－８９８３